

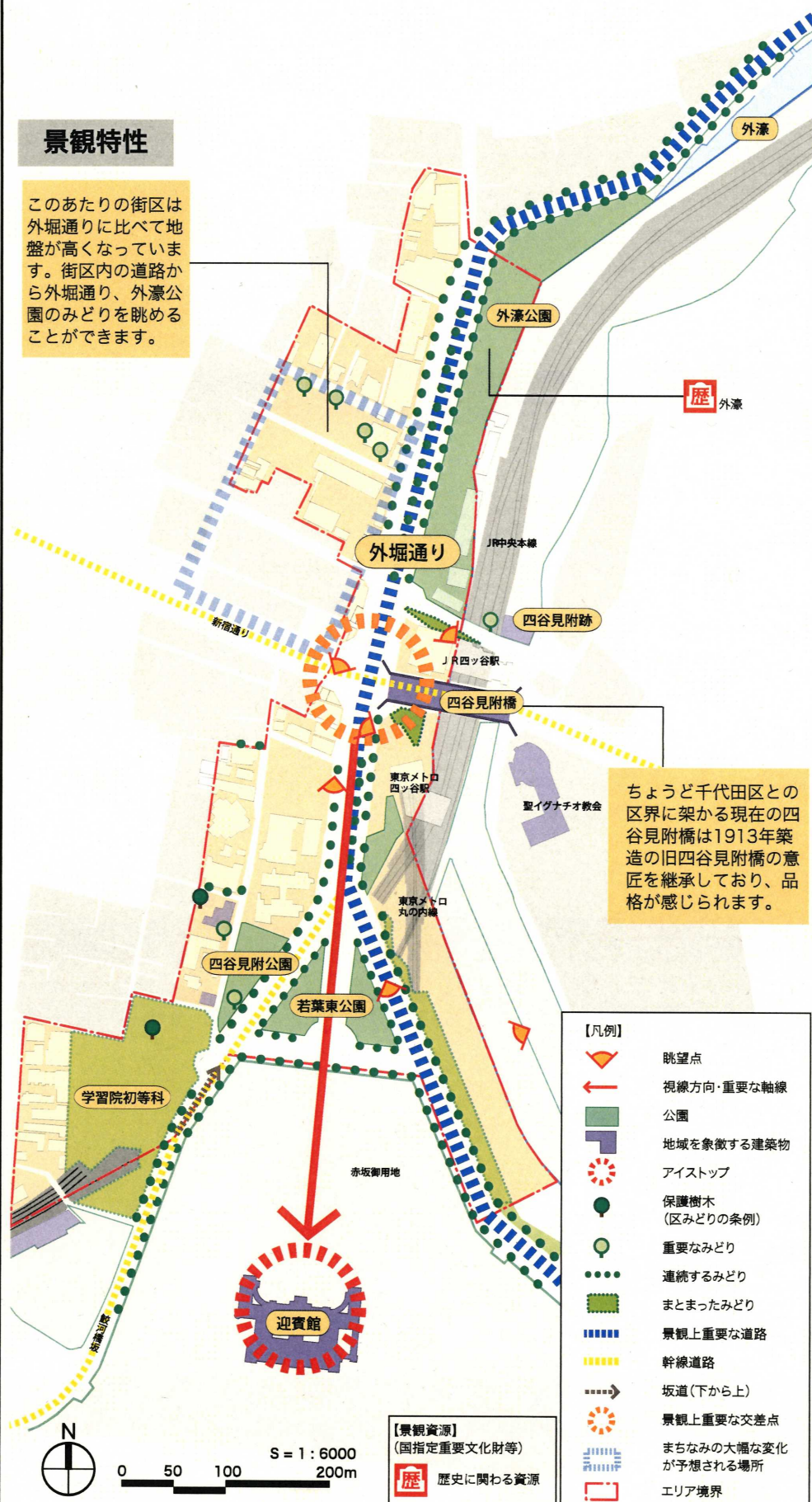
1-1 四谷外濠エリア

江戸時代に谷地形を利用し築造された外濠のみどりと、明治時代に築造されたネオ・バロック様式の四谷見附橋に見られる西洋的意匠が、このエリアの景観を特徴づけています。



景観特性

このあたりの街区は外堀通りに比べて地盤が高くなっています。街区内の道路から外堀通り、外濠公園のみどりを眺めることができます。



1. 豊富なみどりがあふれ出す外濠 (史跡江戸城外堀跡)



外堀は寛永13(1636)年に築造されました。明治時代の甲武鉄道開通や、戦後の埋立てなどもありましたが、現在でも大部分は江戸時代のままの姿が残り、広大な緑地帯となっています。外濠に沿って通る、外堀通りの街路樹とともに、四ツ谷駅周辺の景観に潤いを与えています。

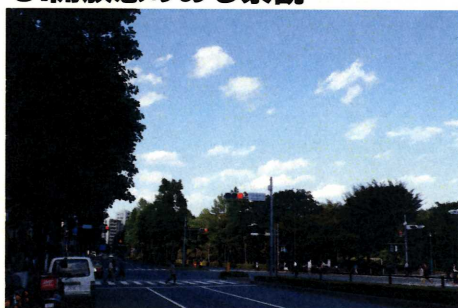
2. 迎賓館への眺めと西洋的意匠



ちょうど千代田区との区界に架かる現在の四谷見附橋は1913年築造の旧四谷見附橋の意匠を継承しており、品格が感じられます。

四ツ谷駅前から迎賓館にかけての外堀通り沿いの並木と、左右対称の形態の若葉東公園により、迎賓館への眺めは風格あるものとなっています。また、迎賓館や四谷見附橋のネオ・バロック様式が特徴的な意匠です。

3. 開放感のある景観



外濠という広大なオープンスペースと、広幅員の道路が広々とした眺めを創出しています。

景観形成の目標

外濠の豊かなみどりを中心とした風格のあるまちなみへ

外濠の豊かなみどりを守り育てながら、迎賓館や四谷見附橋に見られる歴史的なおもむきをエリア全体へと広げていく。

景観形成の方針

1. 外濠のみどりがもつ歴史あるおもむきを保全する

景観形成の考え方

都心において貴重な水面、緑地帯を有する外濠のおもむきを周辺も一体となって保全する。

具体的な方策

- 外濠の樹木を保全する
- 水面は埋め立てない
- 公共空間の整備にあたっては、エリアのシンボルである四谷見附橋の意匠と調和を図る
- 外濠のおもむきと調和した、落ち着いた形態意匠および色彩とする

2. 迎賓館の眺めを保全する

景観形成の考え方

東京を代表する近代建築物である迎賓館(赤坂離宮)を中心とする眺めを、将来に渡って継承する。

具体的な方策

- 若葉東公園等の公共空間は、左右対称性や広がりのある眺めの確保などに配慮する
- 外壁は迎賓館のおもむきと調和した落ち着いた色彩や素材とする
- 屋上広告物は、設置しないようにするか、建築物と一体的に計画し、周囲からの見え方に配慮する

3. 外濠のみどりと調和した周辺の景観をつくる

景観形成の考え方

外堀通りの周辺では、外濠と調和したみどり豊かなまちなみをつくる。

具体的な方策

- 外濠への眺めに配慮した配置とする
- 大規模な計画では、まとまったみどりをつくる
- 中・小規模の計画では、道路沿いで積極的に緑化を行う

まちなみの大幅な変化が予想される場所では、みどりで包まれ潤いあふれる四谷地区にふさわしい拠点創出する。

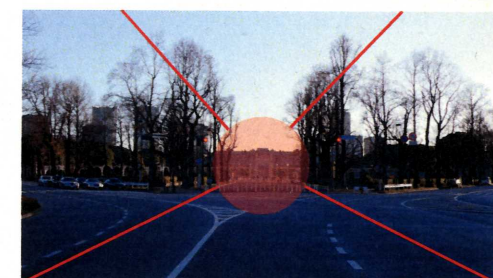
- 外濠の水とみどりと調和する形態意匠および色彩とする
- 外堀通りの連続性に配慮する
- 迎賓館や四谷見附橋の意匠との調和を図る



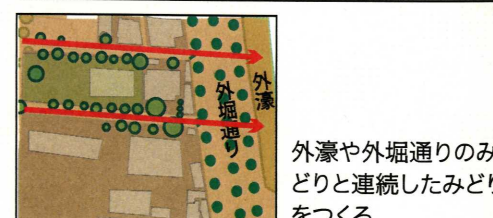
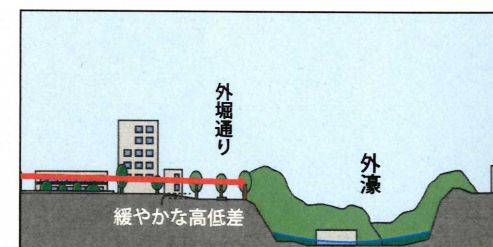
豊かな水面と樹木



四谷見附橋、迎賓館周辺の意匠



迎賓館への眺望景観を守る



外濠や外堀通りのみどりと連続したみどりをつくる

1-2 四谷北エリア

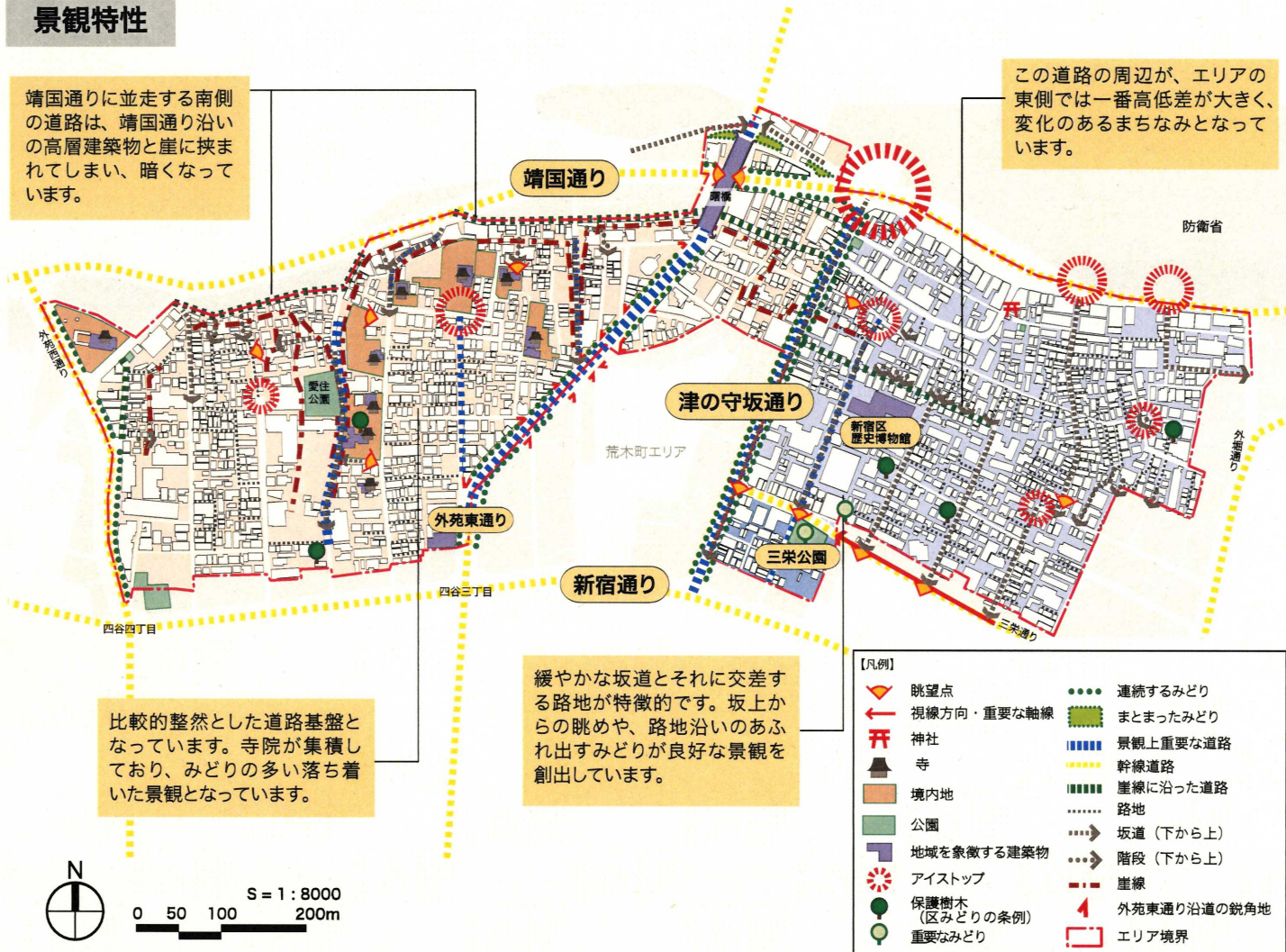
新宿通りと靖国通りの2本の幹線道路に挟まれた住宅地です。全体的に北へ向かって下がっていく斜面地となっています。南北方向の坂道や東西方向の道路沿いは、あふれるみどりや連なる擁壁により特徴的な景観となっています。特に、新宿歴史博物館周辺はみどりが多く、良好なまちなみとなっています。



景観特性

靖国通りに並走する南側の道路は、靖国通り沿いの高層建築物と崖に挟まれてしまい、暗くなっています。

この道路の周辺が、エリアの東側では一番高低差が大きく、変化のあるまちなみとなっています。



比較的整然とした道路基盤となっています。寺院が集積しており、みどりの多い落ち着いた景観となっています。

緩やかな坂道とそれに交差する路地が特徴的です。坂上からの眺めや、路地沿いのあふれ出すみどりが良好な景観を創出しています。

1. 坂上からの眺め



新宿通りから靖国通りへ向かって下がっていく斜面地に、愛住町周辺では谷地が入り組み、非常に複雑な地形となっています。そのため、エリア内には見晴らしの良い坂上が点在しています。

2. 東西方向の道路における左右の高低差



等高線に沿って通る東西方向の道路沿いでは、道路面より片方は低く、他方は高くなっています。そのため、左右非対称の特徴的な景観となっています。

3. 外苑東通り沿道の鋭角地



江戸時代から引き継がれている道路を斜めに横切ることにより、鋭角の角地が外苑東通り沿いに生じています。その角地は自然と人の視線を集め、個性的な景観を創出しています。

景観形成の目標

地形をいかしたみどりで包まれる閑静なまちなみへ

新宿通りから靖国通りへの斜面地に立地する住宅地において、地形と道路の関係をいかしてみどりのまちなみを創出する。

景観形成の方針

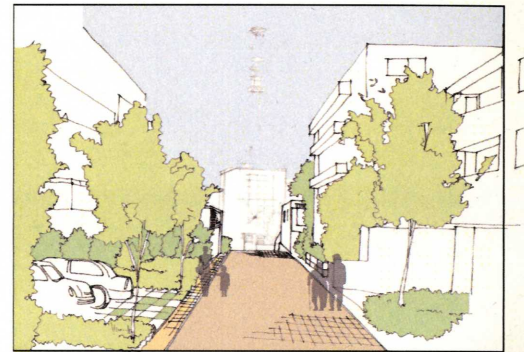
1. 豊かなみどりを感じる景観をつくる

景観形成の考え方

新宿区歴史博物館前の通りや坂道などを重点的に緑化し、みどり豊かな道路景観をつくる。

具体的な方策

- 新宿歴史博物館前の通り沿いでは積極的に緑化を行う
- 擁壁の上部の塀・さくは高さを抑える
- 坂道に面する場所では、坂上からの眺めに配慮し屋上緑化を推進する
- 擁壁は周囲と調和し、圧迫感を与えないものとなるよう工夫する(壁面緑化を行う、自然素材を用いる、分節化を図るなど)
- 道路沿いには空地をとり、植栽帯を設ける



建築物の前面に十分な空地をとり、緑化する

2. 道路と敷地との高低差をいかした景観をつくる

景観形成の考え方

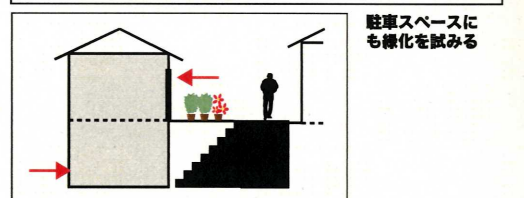
道路と両側の敷地に高低差がある場所においては、圧迫感を軽減し潤いを創出する。

具体的な方策

- 擁壁の上部の塀・さくは高さを抑える
- 擁壁の上部は、閉鎖的でないものとするか、緑化を行う



駐車スペースにも緑化を試みる



裏になってしまう道をつくらない工夫

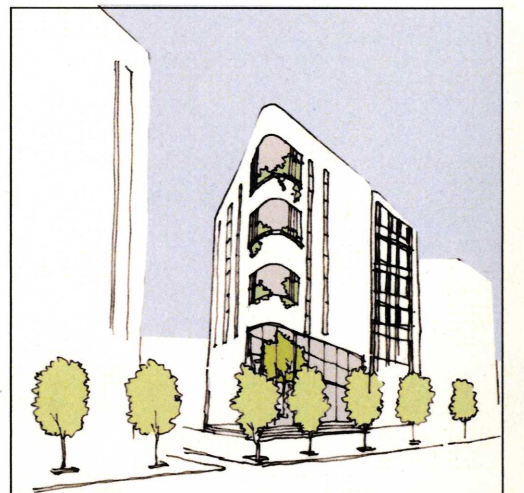
3. 外苑東通り沿いの個性的なまちなみをつくる

景観形成の考え方

外苑東通り沿いの鋭角の角地をいかして、個性的なまちなみをつくる。

具体的な方策

- まちなみのシンボルとなることを考慮した、形態意匠とする
- コーナー部分以外は、落ち着いた形態意匠とする



幹線道路の景観に地区の個性を反映させる

